

熱海市へTEC-FORCE派遣

～令和3年7月1日から3日の東海地方・関東地方南部を中心とした大雨～

TEC-FORCE Technical Emergency Control FORCE



静岡県熱海市伊豆山（令和3年7月7日撮影）



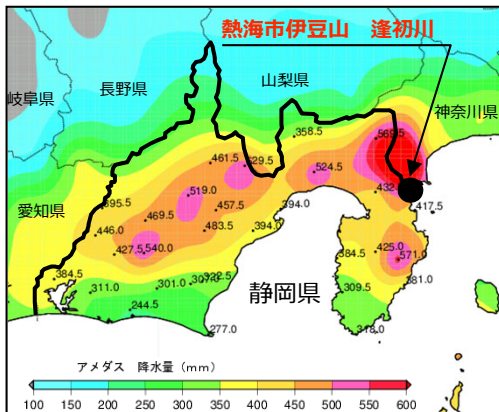
令和3年7月

国土交通省 中部地方整備局

被害の概要

梅雨前線に伴う雨が令和3年7月1日未明から降り始め、7月3日までの総雨量が静岡県熱海市の雨量観測所（県観測）において496mmに達した。2日12時30分には熱海市に土砂災害警戒情報が発表された。（7日14:30解除）この大雨により熱海市伊豆山の逢初川上流部の標高390m地点で土石流が発生。海岸までの約2kmを流下し、下流の住宅街で甚大な被害が発生した。

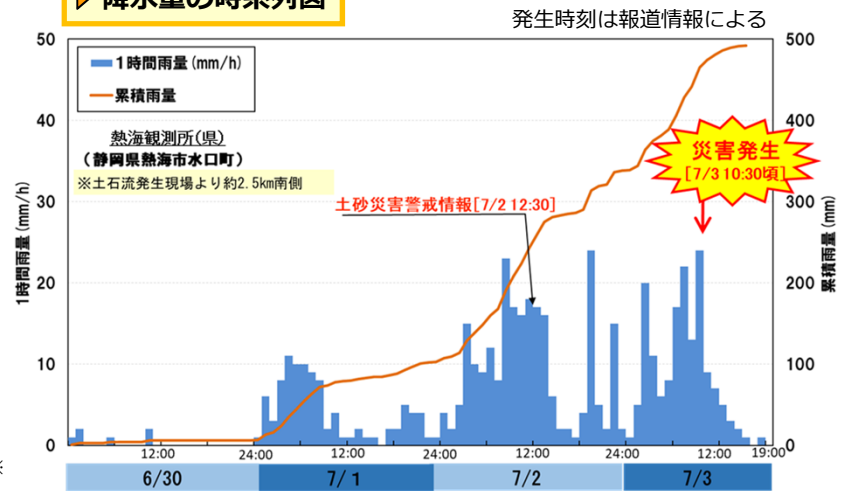
▶ アメダス降水量分布図



6月30日18時～7月5日00時までの積算雨量※

※出典：気象庁ホームページ
https://www.data.jma.go.jp/obd/bsdb/data/files/sg_history/22000/2021/22000_2021_1_8_1.pdf

▶ 降水量の時系列図



▶ 静岡県熱海市の被害状況

- 人的被害
 - 死者 : 26名
 - 行方不明者 : 1名
 - 中等症 : 3名
 - その他 : 25名
 - 避難者 : 153名
 - 物的被害
 - 被害棟数 : 128棟
 - (135世帯)
- (静岡県発表資料9月3日16:00現在)



源頭部の崩壊状況



被害状況（全景）



家屋の被害状況



TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の活動

TEC – FORCE派遣

- 令和3年7月1日から大雨による熱海市で発生した土砂災害において、中部地方整備局はTEC-FORCE隊員を延べ323人・日（実人数66人）、リエゾンを延べ202人・日（実人数107人）派遣した。
- 現地での情報収集、被災状況の調査、災害対策機械による応急対策など、早期復旧に向けて地方公共団体支援を実施した。

総括班

期間：7月3日（土）～7月15日（木）
職員：延べ52人・日（実人数8人）
派遣箇所：静岡県熱海土木事務所

リエゾン班

期間：7月3日（土）～8月13日（金）
職員：延べ202人・日（実人数107人）
派遣箇所：静岡県庁、熱海土木事務所、熱海市役所

被災状況調査班

期間：7月3日（土）～7月16日（金）
職員：延べ225人・日（実人数50人）
班構成：ドローン調査班、砂防調査班、道路調査班、港湾調査班

応急対策班

期間：7月3日（土）～7月17日（土）
職員：延べ46人・日（実人数8人）
協力業者：20社、オペレーター：78名
派遣車両：照明車7台、排水ポンプ車3台、衛星通信車1台、
待機支援車1台、分解型無人バックホウ2台、
Car-SAT1台、Ku-SAT2基

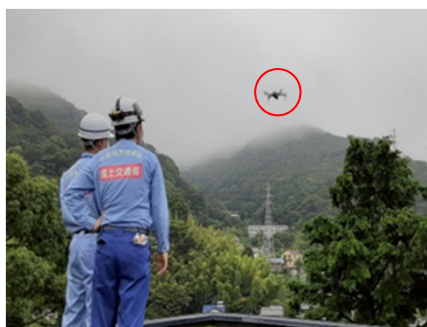
災害対策ヘリコプター

期間：7月5日、6日、9日、12日
機体：あおぞら号（中部地整まんなか号は整備中）
活動状況：静岡県ともリアルタイムに映像を共有しながら
広域的な調査を実施し映像を記録。



▶ ドローンによる被災状況確認

土石流の被害状況を把握するため、ドローンによる調査を実施した。



TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の活動

現地での調査にあたっては、自治体職員、関係機関と情報共有を図りつつ作業を行った。



被害状況の調査



砂防施設の被災状況調査



ドローンによる港の状況調査



衛星通信社によるライブ配信



関係機関と情報共有を図る調整会議

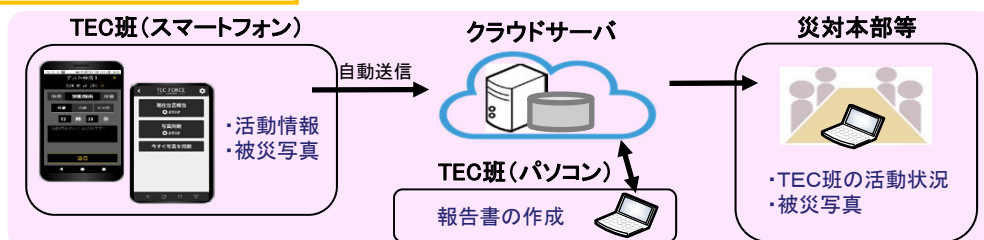


TECアプリによる報告(※)

(※)TEC-FORCE活動支援アプリ(TECアプリ)について

TECアプリとは

スマートフォンのGPS機能やクラウドサーバ等のデジタル技術を活用して、調査活動や情報共有の効率化・迅速化のために開発したアプリ。



調査結果の報告・赤羽国土交通大臣の激励

中部地方整備局のTEC-FORCEは、静岡県熱海土木事務所、熱海市に被災状況調査の結果を報告した。また、赤羽一嘉国土交通大臣が被災地を視察し、TEC-FORCE隊員を激励した。



熱海市（砂防調査班）



熱海土木事務所（砂防調査班）



赤羽国土交通大臣の激励を受ける隊員



国土交通省

国土交通省 中部地方整備局 災害対策マネジメント室

〒460-8514

名古屋市中区三の丸2-5-1

名古屋合同庁舎2号館 Tel: 052-685-0533

URL: <http://www.cbr.mlit.go.jp>

令和3年8月作成